

平成15年度特別支援教育推進体制モデル事業

都道府県名 山 形 県

1 推進地域の概要

(1) 推進地域の名称（市区町村名等）、特色

寒河江市	山形県の中心に位置し、優しさあふれる福祉社会と心なごむ生活環境の形成に力を入れている。人口4万3千人。2年間の「LDに対する指導体制の充実事業」の研究協力校である寒河江小学校を中心に、研究を深めた。
河北町	寒河江市と隣接し、紅花の里として自然に恵まれ、全町民一丸となり教育に熱心な地域。人口2万1千人。「LDに対する指導体制の充実事業」の研究協力校である河北中学校を拠点校として、小中連携の中で寒河江市の中学校へも研究発信をめざした。

(2) 各推進地域内の公立学校数及び児童生徒数（小学校・中学校別）

推進地域名	学校数	学級数	児童生徒数
寒河江市	小学校	11	120
	中学校	3	48
河北町	小学校	6	43
	中学校	1	22

【参考】県内の状況

	校数	学級数	児童生徒数
小学校	342	3204	72452
中学校	131	1315	40496

2 調査研究運営会議

(1) 構成

	運営 会議	専門家 チーム	巡回 相談員	氏 名	所 属	職 名	備 考
1	○			A	寒河江市小学校	校長	LD、ADHD等総合推進地域代表
2	○			B	寒河江市中学校	校長	"
3	○			C	河北町小学校	校長	"
4	○			D	河北町中学校	校長	"
5	○			E	寒河江市教育委員会	指導主事	指定推進地域所管教育委員会
6	○			F	河北町教育委員会	教育主幹	"
7	○	○	○	G	福祉相談センター	副所長	医師
8	○	○	○	H	大学教育学部	助教授	障害児教育学
9	○	○	○	I	保健医療大学	教授	作業療法学科
10	○	○	○	J	短期大学	講師	
11	○	○	○	K	小学校	教諭	LD 指導支援事業指導相談員
12	○		○	L	小学校	教諭	LD 指導支援事業指導相談員
13	○		○	M	小学校	教諭	LD 指導支援事業指導相談員
14	○		○	N	養護学校	教諭	LD指導支援事業指導相談員
15	○		○	O	養護学校	教諭	
16	○	○		P	養護学校	校長	県就学指導委員会情緒障害担当校長
17	○	○		Q	県教育センター	特殊教育部部長	
18	○			R	山形県LD児・者親の会代表		
19	○			S	山形県ADHD親の会代表		
事務局				T	県教育庁義務教育課	課長	
				他3名		指導主事等	
				U	村山教育事務所	副所長	
				他3名		指導主事等	

(2) 開催回数・検討内容

第1回調査研究運営会議		時：平成15年9月4日（木） 於：村山総合支庁 西庁舎
1	報告	「今後の特別支援教育の在り方について」
2	説明	
	(1) 事業概要について	
	①文部科学省からの委嘱通知（実施要項）	
	②山形県実施要項	
	(2) 事業の内容について	
	①調査研究運営会議の設置と役割	②校内委員会の設置と役割
	③特別支援コーディネーターの役割	④巡回相談事業
	⑤専門家チームの設置と役割	
3	協議	
	事業全般について	
4	話し合われたこと	
	(1) 保護者等との連携	
	(2) 教職員の研修について	
	(3) 巡回相談について	
5	部会会議	専門家チーム、巡回相談員
第2回調査研究運営会議		時：平成16年3月11日（木）於：村山総合支庁 西庁舎
1	報告	『小・中学校におけるLD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）』について
2	説明と協議	
	(1) 今年度の取組み状況	
	(2) 研究協力校の成果と課題	
	(3) 盲・聾・養護学校の関わり、県単独事業「学習につまずきのある児童生徒指導支援事業」の関わり	
	(4) 「中間まとめ」と来年度のモデル事業について	
3	話し合われたこと	
	(1) 校内委員会について	
	(2) 特別支援教育コーディネーター・養成研修会について	
	(3) 巡回相談事業について	
	(4) 関係機関との連携について	
	(5) 特殊教育諸学校、つまずき事業との関わりについて	

3 校内委員会

(1) 校内委員会の設置に関する対応

総合推進地域内の全小・中学校（21校）、県内の全県立特殊教育諸学校10校（分教室含む）に対して、校内委員会の役割を明示し、学校の実情に合わせた校内委員会の設置を要請した。

(2) 各推進地域内の取組の概要

①設置の目的

- ・ 総合推進地域における研究協力校は、校内委員会を設置し、LD、ADHD、高機能自閉症等の疑いのある児童生徒の実態把握を行い、専門家チームに判断を求めるかどうかを検討する。
- ・ LD、ADHD、高機能自閉症等に対する校内の理解推進を行うとともに、指導体制を整備し、望ましい教育的対応について具体的方策を検討する。
- ・ LD、ADHD、高機能自閉症児等支援のため、巡回相談事業の活用を図る。

②設置の方法

- ・ 校内委員会は、学校の校内分掌に位置づけ、必要に応じて会議を行う。

4 特別支援教育コーディネーター

(1) 特別支援教育コーディネーターの指名に関する対応

- ① 総合推進地域内の全小・中学校(21校)、県内の全県立特殊教育諸学校10校(分教室を含む)に対して、コーディネーターの資質と役割を明示し、学校の実情に合わせた特別支援教育コーディネーターの指名を依頼。
- ② 指名されたコーディネーターは、計画した3回の養成研修に参加を要請。
求められる資質と役割を目指し、研修内容を検討し実施した。

(2) 各推進地域内の取組の概要

① コーディネーターの指名

学校規模、専門的知識を持ち合わせている教員の存在の有無等により下記のような校務分掌の教員が指名を受けた。

指名を受けた職名・校務分掌名		
	総合推進地域研究協力校 21校中	盲・聾・養護学校 12校中(分教室)
教頭	0校	1校
教務主任	3校	4校(内副教務2校)
学年担任	4校	0校
特殊学級担任	10校	
生徒指導主任	1校	0校
教育相談主任	2校	4校
養護教諭	1校	0校
その他	0校	3校

(3) 養成研修の内容

回	開催月日・場所	研修内容	
1	H15, 9, 19, 村山教育事務所 西庁舎 講堂	報告	今後の特別支援教育の在り方について
		説明	①特別支援教育推進体制モデル事業概要 ②コーディネーターに期待されるもの
		講義	LD、ADHD、高機能自閉症について
		事例発表	校内支援体制づくりとその活動
2	H15, 12, 11 村山教育事務所 西庁舎 会議室	報告	事務局から ①事業の進捗状況について ②巡回相談の手続きの進め方
		演習	担任、校内委員会が行う 第1・2次精査チェックリストについて
		講義	発達検査から分かること
		講義	LD、ADHD、高機能自閉症が疑われる児童生徒への支援 ～発達検査と指導計画～
3	H16, 2, 25 村山教育事務所 西庁舎 講堂 他	報告	①モデル事業の進捗状況について ②国立特殊教育総合研究所セミナーⅠに参加して
		事例発表	学校と保護者の連携の在り方 ①～保護者の立場から望むこと～ ②～モデル事業等での取組みから～
		報告	①モデル事業の進捗状況について ②国立特殊教育総合研究所セミナーⅠに参加して
		講義	LD・ADHD・高機能自閉症が疑われる児童生徒への支援 ～教育と医療の連携～
		分科会	コー ディ ネー ター 部 会
			小学校下学年部会 小学校上学年部会 中学校部会 養護学校部会
		つ ま ず き 事 業 指 導 相 談 員 部 会	各校の取組と 成果・課題 特別支援教育を推進する上での盲・聾・養護学校の在り方について 取組み状況と 成果・課題 義務教育課

5 専門家チーム

(1) 設置状況

- ・ 専門家チームは、LD、ADHD、高機能自閉症等に関する専門的知識を有する医師、心理学、教育の専門家等から構成する。
- ・ 委員の中には、調査研究運営会議委員、巡回相談員と兼ねる者を置き、各組織と連携を図りながら進める。

(2) 構成 (前掲)

6 巡回相談

(1) 活動状況

- ・ LD、ADHD、高機能自閉症等に関する専門的知識・経験を有する相談員が、本事業の総合推進地域の研究協力校に巡回相談を行い、助言・指導を行うことにより、LD、ADHD、高機能自閉症等に対する指導方法、指導内容の充実を図る。
- ・ 県教育委員会は、LD、ADHD、高機能自閉症等に関する専門的知識・経験を有する者を巡回相談員として委嘱する。

(2) 巡回相談員の構成 (前掲)

7 成果と課題

(1) 成果

研究指定校の教職員や保護者の「特別支援教育」に対する意識の高まりとともに、理解が進んできている。また、全校体制で「特別支援教育」に取り組んでいこうとする意識が高まってきている。

(2) 課題

個別記録シートやチェックリスト等を活用しながら正しく実態を把握し、個に応じた支援の仕方の在り方を探ることが、実際には大変難しい。専門家の直接的な助言・指導を得ることが必要であり、専門家の確保が課題である。